

注意点1

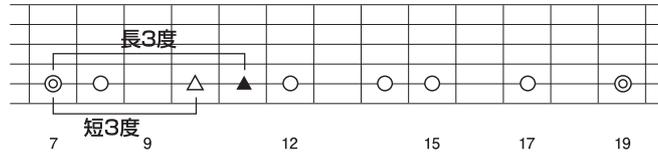
理論

フラメンコ的スケール スパニッシュ8ノート

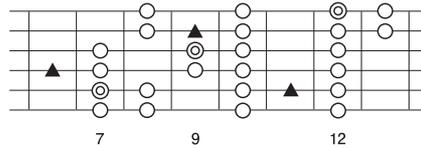
フラメンコ・ギターは、放浪の民“ジプシー”の影響で発展したもので、おもに曲の伴奏として演奏されてきた。しかし、パコ・デ・ルシアの出現により、超絶テクニックを取り入れたフラメンコ・ギターが世界中のギタリストに大きな衝撃を与えたのだ。そんなフラメンコ・ギターでよく使われるスケールが“スパニッシュ8ノート”(図1)。このスケールは、その名のとおり8音で構成されており、“フリジアン・スケール”に“長3度”を足したものとなっている。そのため“短3度”と“長3度”が共存しているのが大きな特徴と言えるだろう。熱く情熱的でありながら、フリジアンのようなハーモニック・マイナー風の響きも味わえるのが面白い。この機会に、ぜひ覚えよう。

図1 スパニッシュ8ノート・スケール

◎ ルート音=E △ 短3度=G ▲ 長3度=G[♯]



Eスパニッシュ8ノート・スケールの代表的なポジション



注意点2

左手

スパニッシュ8ノートの 独特なポジションを覚えよう

このフレーズを弾く際には、まずは独特なポジショニングに注意しよう。1小節目3拍目などに出てくる5弦11フレット(G[♯]音)と10フレット(G音)の関係が“長3度”と“短3度”に当たる。この独特なスケール感によって生み出される変則的なポジショニングをしっかり覚えよう。続いて注意してもらいたいのが、4小節目のエコノミー上昇フレーズだ。4～2弦まですべて9&10&12フレットを押さえるので、ポジショニングはそれほど複雑ではないが、2拍目の2弦から3弦に弦移動する部分は注意しよう。ここでは、小指で2弦12フレットをハンマリングしたと同時に、人差し指は3弦9フレットの押弦準備をすること(写真②)。これまで何度も解説してきたことだが、速く正確に弾くために必ず守ってもらいたい。



2弦10fを押弦。この時点でピックは3弦へ移動。



2弦12fをハンマリング。3弦9fも押弦しておく。



3弦9fを押弦。人差し指で4弦のミュートもしよう。

～コラム42～

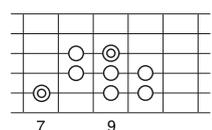
地獄の戯れ言

ここでは、いくつか変則的なスケールを紹介しよう(図2)。まずは北欧系メタルでよく耳にするハンガリアン・マイナー”スケール。ハーモニック・マイナーを怪しい感じにした響きで、確かにヘヴィメタルに合う。次は“ヒンズー”スケール。明るさと暗さのバランスが実に面白くカッコいい。ジョージ・リンチ・ファンなら一度は聴いたことがある響きだろう。最後は“ビザンチン”スケール。“ペルシャ”スケールとも呼ばれるが、中近東音楽の響きとなっている。それぞれE音を基準に紹介したので、6弦開放を鳴らした状態で、弾き比べてみてほしい。

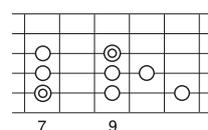
世界不思議スケール探求!

図2 変則的なスケール図 ◎ ルート音=E

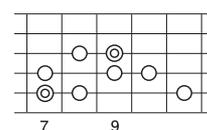
Eハンガリアン・マイナー・スケール



Eヒンズー・スケール



Eビザンチン・スケール



叫喚フィンガリング地獄

焦熱ピッキング地獄

阿鼻テクニック地獄

無間超絶フレーズ地獄

最終練習曲地獄